
彼岸花

寿々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼岸花

【Nコード】

N9940A

【作者名】

寿々

【あらすじ】

ブリーチファンフィクション。日番谷は独り、彼岸花の咲く野原に立っていて・・

赤々と咲いている彼岸花。

その容姿は、切なげで、少し淋しげで……

ぷつり、と音を立てて茎と花が分かれた。

昔は「毒がある！」と言われて摘んできた彼岸花を捨てられた。

いつの間にか、彼岸になると咲いていて

人知れず、枯れていく。

日番谷冬獅郎は、独り、彼岸花の咲く野原に佇んでいた。
回り一面赤。

美しいのに、その美しさを隠すように
ひっそりと咲いている。

「日番谷隊長」。あ、いたいた！なんでこんな所にいるんですかあ？」

彼岸花が咲く野原の向こうから、松本乱菊が走ってきた。

「緊急の会議なんなか？」

「いえ。そういうわけじゃないです。あ、でも書類が結構溜まってきたんで……」

サアアア………

鈴が鳴るように風が吹いた。

角笛のような強い音でもなく

ホイッスルのような甲高い音でもなく

草笛のような弱弱しい音でもない。

ただ、鈴が揺れるような

凜としているけど、やわらかい音。

そして、それに身を任せているように
彼岸花は揺れる。

「綺麗・・・」

そう呟いたとき、いきなり乱菊が顔を覗き込んだ。

「めずらしー！隊長がそんな事いうなんて！しかも
彼岸花見て言うなんて」

「そ・・・そうか？」

「そーですよ！いつもは子供のくせに
冷たい氷みたいな感じなのに！」

乱菊は言いたい放題言つと、ぺたんと座り込んだ。

「彼岸花と隊長つて似てますね」

「・・・どこがだ・・・？」

「つと、冷たい感じがするところ」

「それだけ？」

「はい」

「・・・」

日番谷はしゃがみこんだ。

「た・・・隊長・・・？」

「悪い。松本、先に帰ってくれないか」

「は・・・はい・・・」

うつろな目に映るのは

しゃがみこんだ隊長と、あいつの面影。

「ギン・・・」

「市丸・・・？」

そうだ。

彼岸花は

あいつに似ている。

綺麗な明るい色をしている感じなのに
中身は無で、

どこか不思議な怖さがあって、
冷たさがあって、

独りでひっそりという感じ。
にやりと笑うと

彼岸花が揺れるようだ、と
たまに思っていた。

そうだ。

いつかひっそりと消えていく。
彼岸花は、

いつか、皆の前から消え、
俺の中から立ち去ろうとする

彼岸花は、あいつに似ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9940a/>

彼岸花

2010年10月30日05時34分発行